



ジョン万次郎ホイツフィールド記念

(財)国際草の根交流センター

<<第11回サミット広島大会は2002年度開催へ>>



サミットの延期を伝える米側HP

第11回日米草の根交流サミット広島大会は、2001年9月11日(火)に米国で発生した同時多発テロの影響を考慮して9月28日(金)正式に2001年の開催を中止いたしました。10月12日(金)より開催が予定されていた大会には、米国から260名、在日の方110名の計370名の米国人、また、ホームステイなど受け入れ側として概ね2000名の日本人の交流が行われる見込みでした。今回は残念ながら中止(延期)となりましたが、来年の開催へ向けてプログラムのブラッシュアップを図り、より充実した交流の実現を目指します。また、今後の財団の取組みとして「

広島大会の後に続く大会開催予定

広島大会	2002年10月
米国テキサス州	2002年11月
千葉県	2003年10月(予定)

<<その後の開催予定地>>

米国マサチューセッツ州

【財団の今後の取組み】

- 財団の情報発信(HPRリニューアル)
- 広島大会開催へ向けて
 - ・プログラムのバージョンアップ
 - ・参加者の追加募集
 - ・参加者への情報発信
- 米国開催大会の準備
 - ・プログラム作成及び参加者募集
- 次回日本開催大会の準備
 - ・プログラム作成及び参加者募集



米国での説明会の様子

絶やさない。ボランティアの心...

大会の開催と日米市民交流を实践するため組織されたサミット広島大会ボランティアの皆さんも、今回の延期の決定には大変残念な思いをされました。しかし、今は目標を切り替えて新しい取組みを始めています。ボランティアの会のチラシ(右参照)には「ここからはじめよう日米草の根交流新たな旅立ち・・・テロ騒ぎで、残念ながら今年の日米草の根サミットINひろしまは延期となってしまいました。でも、このまま終わらせて良いのでしょうか・・・ということで次期開催へ向け



ボランティア会議の様子

ての今後の活動について、また、テロについてなどみなさんと語り合おう!という会を計画しました。みなさま、お忙しいことは存じますが、ぜひご出席ください。」会合では今後の運営体制についての意見の交換をする等活発な活動を行い、来年に大会の開催・成功へ向け新たな決意をされました。草の根交流はこうした市民の皆さんの力に支えていただいています。また、この会では会費の半分を「テロ義捐金」として役立てることとしているそうです。



ボランティア親睦会のチラシ

財団の米国側カウンターパート団体(CIE-U.S.A)設立へ始動！

CIE-U.S.A.(Center for International Exchange,U.S.A.)が設立を目指して現在活動中です。設立への中心メンバーはコロラド州の南コロラド日米協会の方々です。まだ準備段階ではありますが、現在は設立のファイリング申請済みで、当地のEI Pomer財団に事務所スペース・事務機器・インターン学生参加を準備していただいています。設立が実現されれば米国での開催時のサポートや日本開催時の参加者の募集、さらには恒常的な市民交流の実現に向けて大きな支えとなります。現在南コロラド日米協会会長のMr.Tom Jamesは、1996年10月に「第6回日米草の根交流サミット大会」がコロラド州で開催されたときの準備委員会の副委員長でした。南コロラド日米協会はそのときの準備委員会をその祖として組織されています。コロラド州からはサミット日本開催大会に、チルドレンズコーラル(少年少女合唱団)やユース・シンフォニーの子供達を始め大会ごとに100人以上の方々に参加されており、その中心となっているのが南コロラド日米協会です。CIE-U.S.A.はNPO団体としてスタートする予定です。



南コロラド日米協会会長ご夫妻とポール副会長、財団事務局



南コロラド日米協会会長Mr.Tom James

サミット延期でも来日。ポール・マルヤマさんボランティアを激励！

南コロラド日米協会副会長のポール・マルヤマさんご夫妻が、広島大会期間中にあたる10月6日(土)~15日(月)の間、当初の予定通り来日され、広島県を始め日本各地を訪れました。ポールさんは東京オリンピックの柔道軽量級の米国代表選手の日系三世で、現在はコロラドスプリングス市のコロラドカレッジで日本語を教えていらっしゃいます。ポールさんは、かねてよりサミット大会にボランティアとして参加され、今回の広島サミットの準備についても米国参加者の申込窓口や各種お問い合わせ窓口を勤め、参加者募集のパンフレットにはポールさんのEメールアドレスが記載されています。ポールさんは、10月12日(金)15:00に広島大会ボランティア会合に出席し、講演。自らの草の根交流の経験や広島大会の延期についての思いとボランティアの皆さんのこれまでの努力をたたえるとともに激励されました。ボランティアの皆さんも大きな拍手で応えていました。また、日米交流の原点となった下田市を1泊2日で訪れ、滞在中は石井直樹市長を表敬訪問し、日米の草の根交流等について意見の交換をされました。



ポール・マルヤマさん

NEC

米安田火災

国際教育者プログラム2001 in 庄内開催される

国際教育者プログラム (International Educators Program to Japan) とは、1975年にロサンゼルスからスタートしたプログラムで、在米日系企業等の英語を全く話せない日本人の子供達が現地での学生生活をおくる上で大きなサポート (英語のレッスンや、英語を理由とした理解不足の解消補助等) をしていただいている現地の学校の先生達を、当該企業からの補助により日本へ招待するものです。日本の養育現場を実際に体験していただき今後の活動に活かしてもらうことを主眼としています。財団は、先生達が各地方でホームステイをしたり、各種プログラムへスムーズに参加するためのお手伝いを実施しています。これまでの歴史の中で延べ650人が来日し、今年は6月28日 (木) から7月2日 (月) までの5日間、山形県庄内地方を中心に7市町村に47名が参加されました。参加者の皆さんは期間中全てホームステイを体験し、それぞれの地域の幼稚園、小・中・高校の授業に参加したり、実際に教鞭を取ったりしての交流を通して日本の学校制度を学び、また日本の子供達の生活に直に触れていました。1997年に第7回山形サミットが開かれてから、地元のボランティアが根付き、今回も運営はボランティアで行われました。



幼稚園での授業の様子



ホームステイの様子

<< 京都大学で広がるサミットボランティアの輪 >>

「21世紀の国際感覚」という、今年の京都大学前期一般教科のうち、7つの選択肢がある中で国際草の根交流センターのボランティア活動の一つ取り入れて、単位認定ということでスタートいたしました。

参加した学生は17名で、広島サミット大会前にアメリカ人参加者数名が京都を訪れ、京都大学生と交流プログラムを行う準備も行ってきましたが、サミット大会とともに延期されました。そこで本来ならば前期の授業で終了のはずが、学生達が自主的に来年もこのプログラムに学生ボランティアとしてかわりたいとの希望があり、引き続き今までの3回生、4回生の学生ボランティア5名に加え、約23名の学生ボランティアで新規スタートしました。

このボランティアチームは第10回日米草の根交流米国中西部大会に参加した経済学部4回生の浜田毅土さんの呼びかけで、今年12月に公開でボランティアを募集し約60名が説明会に参加、その中で5名が希望し、スタートしました。今月、学生達が自主的にホームページを立ち上げ、自ら情報を発信し呼びかけるなど、さらなる活動の飛躍を目指し頑張っています。皆さんからのアクセスをお待ちしております。



京都大学ボランティア講習会の様子

HP : http://www5d.biglobe.ne.jp/kin_4009/
<http://fruit.gaiax.com/home/gjkkk>



石井下田市長財団アレンジでインターネットデビュー！

第9回静岡サミット大会（1999年）で分科会を開催した下田市から石井市長が財団のアレンジにより2001年10月16日（火）理事会社のNTTコミュニケーションズ㈱ NetCastStation（東京都渋谷区）を訪問し、同社が提供するインターネット放送局の配信番組に15分間出演し、下田市の良さや市政についての情報を全世界に向けて発信しました。石井市長は2004年に予定されている日米親条約締結150年記念式典に向けての取組みの中で、財団が提供する日米市民交流に大変興味をもたれ、財団活動にご支援を頂いています。下田市は毎年5月にアメリカ大使が参加する「黒船祭り」を開催する、いわば日米交流の本場です。下田市長も下田市の良さをどんどんアピールし、日米市民交流に尽力したいと述べています。

HP URL : www.netcaststation.net/



インターネット放送の準備をする石井市長

財団活動のお手伝いー学生ボランティア楊さん終了報告ー

今年の4月から財団活動のお手伝いをしてくれた都内の大学四年生楊有珍（ヤン・ユジン）さんが半年間の期間を終えて10月に学生ボランティア期間を終了されました。楊さんのがんばりに感謝し、終了報告を掲載します。

私はインターンとして国際草の根交流センターでいろいろ勉強をさせていただきました。元々外国人が好きで初めてこういう仕事があることを聞いて、心の中から本当にうれしく思っていました。

「国際交流」は現代社会の中でなによりも重要だと思っております。そこでまた世界中の先進国である日本とアメリカの交流を少しでも手伝うことができ、自分のなかで栄光だと思っていますし、日本で住んでいて一番勉強になる良い経験をしたと思っております。また、International Educators Programに参加し、国、文化、生活、考え方・・・本当に様々な違いの中でも、人と人が心を分かり合える喜びを味わうことができたことに感謝しましたし、異なる文化を知ることの重要性を改めて感じさせられた良い機会でした。

最後に何も出来ない私をあたたく見守ってくれました国際草の根交流センターの皆さんと、多くの関係者方々に心から大変感謝しております。とてもいい勉強をさせていただきました。ありがとうございました。



「ジョン万次郎とその時代」刊行される

ジョン万次郎等を救助した米国の捕鯨船ジョン・ハラン号の船員ライマン・ホームズ氏(当時18歳)が記録した航海日誌が発見されたことを機会に、「ジョン万次郎とその時代」(廣済堂出版:1800円税別)が刊行されました。阿川尚之慶應義塾大学教授の特別寄稿等で構成された画期的なジョン万次郎論です。

